

生産者名	石井孝史		
所在地	愛知県田原市	調査日	2018/2/16

花きの生産状況

生産品目	輪菊（白）
生産面積	1ha（ハウス、まる型）
出荷量	150万本／年
出荷時期	通年（最盛期は、8月、12月）
消費形態について	知っている（葬祭業者）

花きの出荷について

出荷先	卸売市場、その他（量販店等）
出荷形態	長さ80～90cm、箱に入れて出荷
生産・出荷割合	葬儀用：その他用 = 8～9：1～2
葬祭業者が求める花きの情報の入手方法	業者から直接情報を入手したり、市場を通じて情報を入手する

葬儀などに使われる花きの特徴

- ✓ 葬儀用には主に2L（15kg・160本／箱）やL（14～15kg・200本／箱）が使われます。MやSは、主に小売や仏壇用に使われます。
- ✓ ピーク時は8月の盆、3月と9月の彼岸です。
- ✓ 日照時間が短い秋冬は花が小さくなりやすいため、2LやLの花を出荷できるよう特に気を使います。

葬儀用花き導入の時期ときっかけ

導入時期	昭和末期から平成15年ごろにかけて、キャベツ生産から転換してきた
導入のきっかけ	産地であるため

- ✓ 約10年前に1,000坪のハウスを増設しました
- ✓ キャベツは価格変動が大きいですが、キクは価格が比較的安定しています。
- ✓ 近年、キクの価格は低下傾向にありますが、それでも数%程度です。

産地の現状と今後について

産地の状況と、葬儀用花きの需要減少について

- ✓ 当産地では90cmをメインに生産を目指しています。しかし、葬儀屋は90cmものを使う量が減少傾向にあり、50~70cmものが求められています。家族葬の増加などにより洋花との併用が進んでいることも、50~70cmの需要が増加する要因です。また、単価を抑えるため50~70cmの需要が増加して、輸入ものが使用されています。

花きの需要動向について

- ✓ 一番の需要期である8月はお墓まいり用なので、粗いもの、50~70cmのものが必要になります。
- ✓ 中国、ベトナム、台湾、韓国からの花の輸入が増えています。市場の注文に応じて産地で対応する必要性が強まっていると感じています。